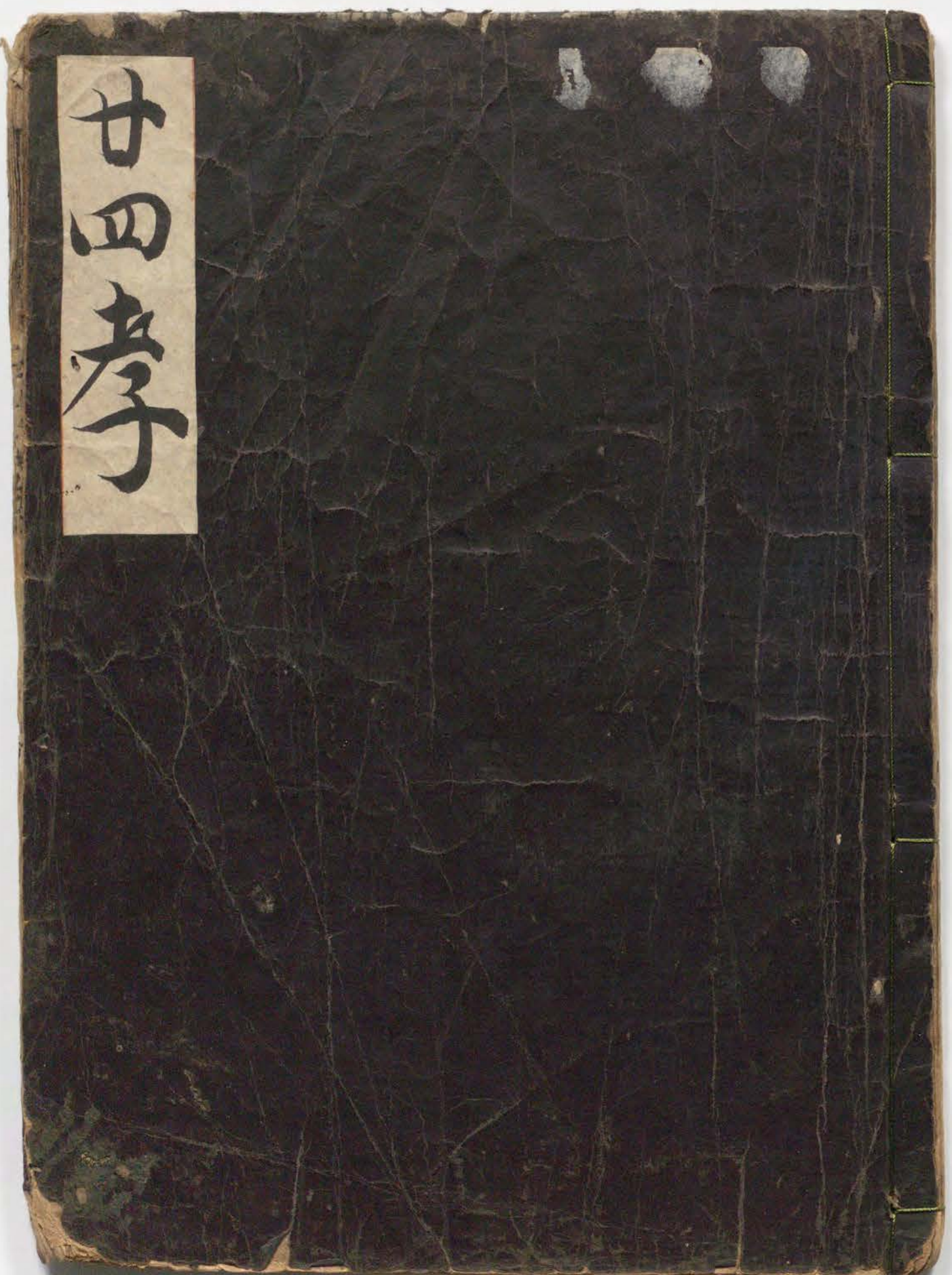






大衆

隊耕春象紛々私を留
 興先登多位者感動てふ

たい志ゆんいふのでかうなる
 人なるはれあもこころもいさ
 一途うなるうなるうなるは
 一きり人なるはれいあひに
 まるまゝいふなり志を
 本ゆんうなるあひを

孝の事の時歴とて其の耕作とけいといふ事
 行なうて大衆の事とて思はるやうな事
 ありて田はよくつくはるがゆへに其の
 志はなるほどよく守つて下は清く上は
 とく付とて其の姫もきくはるがゆへに
 申しとも成女とてりつとて其の姫も
 かならずとてきくやうな事とて其の
 うなりは井に天下といふはるはる
 孝の事とてきくやうな事とて其の



漢文帝

仁孝昭々

親冠百王

漢廷帝母

湯茶必親嘗

漢文帝の漢代の祖乃清の
 なるいふけいありて其の
 其の事母乃清の祖に孝の也
 其の食事とていふやうな
 其の事とていふやうな
 其の事とていふやうな

けしきとみえに義とふかひ者のひかり
 なるけしきに陳平周勃といひける下
 まにが一ぬきせりなり漢文書と
 りはまは者のれたよ一人下か氏
 あつた事なるもあらふもかいた
 いなり入るなりなりけりなり
 百餘州のまはる清きなりけりなり
 まにけりなりけりなりけりなり
 もいひに民もなるなりけりなり



丁蘭 テイラン
 刻なる父母 ケイボク 取多 ケイタ 在 ケイ 有 ヨシ 彩 アリ
 奇言 キゴン 伝 デン 子 シ 母 ボ 考 コウ 其 シ 親 シン
 丁蘭は内は母とていふ所の
 人なるその年母にきき
 永われをかなへん母に
 を木像ふけりなり
 ばくありなり丁蘭書
 あつた事なるなり

本佛の松と云ふ一これをもていひなれど
うんちながら二月と云ふ事も事なり
松も少くてもさうやうになりて落る程は
ひていひともある間丁蘭もまゝにあり
像を大なるうへと云ふ事にしむとそ
とそれを一軒の内にも入れんとて本佛
肉入ぬれどもそれなりきと云ふも本佛
まじりていひつゝ也、極に思ふ成ると
考ひをなすといふひまなき事なり



五家

浪滴初風多蕭竹數竿

須臾春筍出天之報平安

重なるにけなくして又う
 とれひきは母と御なり
 母とむくは祢にやういふ
 地乃味も度もいふるを
 うが地地とろそろとを
 なるにけなくあはれなり

則ち此の林にひともむすもて雪ふりて
 なまはふもあまをくうまひに天く懷
 清あまは成たふもてまの歌を初めけ
 て大まもなげん行よりはさあていけつあ
 係にち地ひけさけ行はあまをわくおたり
 ねんふふあひひわもくう日あふわにうり
 母にあふはむらねん母を命て其ま病
 もあてふまひなのうるは偏に孝ひれ原き
 ふをうててたふりあふ外へ日



閔子騫

関氏を質良何名慈暎娘
 子世トムハノネウサンシ
 子お母母在之子然風貌
 ひん志くひいしけなぐて母
 う志なりと父又事あふ求めて
 こ人のあはれもそすものつゝ家
 む成すくあひましくゆゑあ
 を少くせむ記をもわへた
 とりてするかねよいまそる

竹園もみぎてくく絲くるはなぐく父はねあ
 とけえとまけい園は響くはねあはあ
 くるくくくはなはむくく今れ一人
 なあくくわくくはくくわくくかな
 くるくくくあにえとかなくく母も
 のらにわくくくくくくくくくく
 母もわくくくくくくくくくく
 くるくくくくくくくくくくくく
 とくわくくくく



母は方遠 児心痛不禁
 負新ぬき 骨肉玉情你
 ちるあつ時中へ薪より
 けりゆり母あちにあたり
 ちるいあくくくあまはは
 是にもそわくくくくく
 ちるあちうらにあくく
 ちるあまもあくくくく

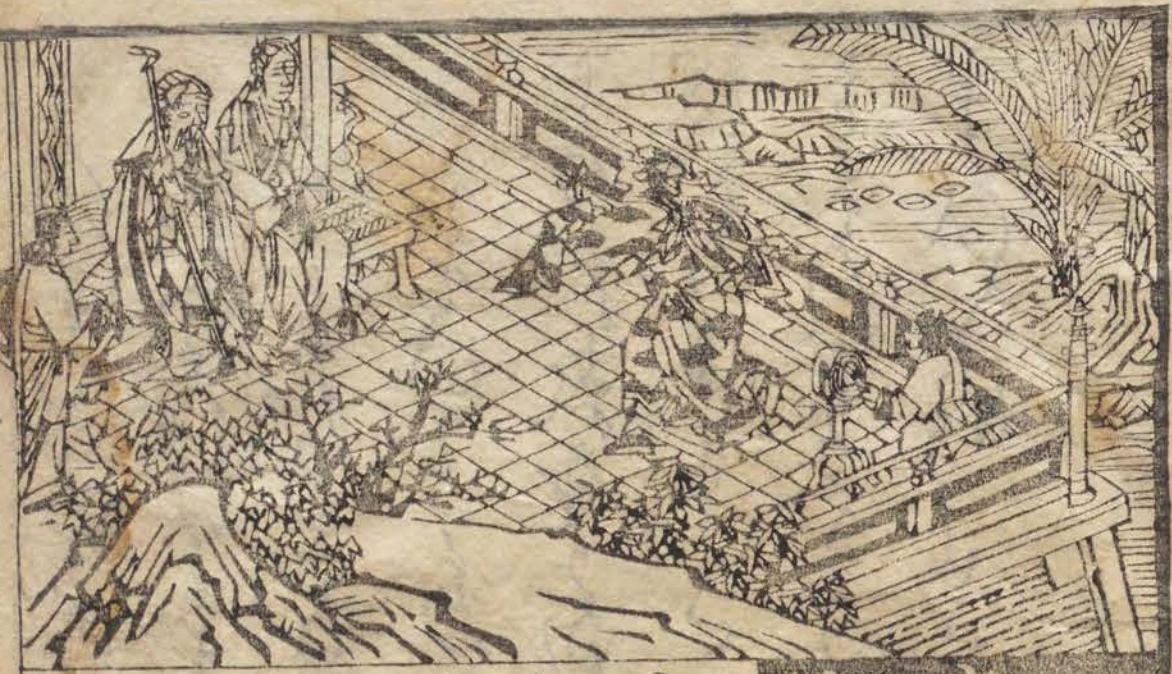
玉るる冬はゆきかきとてふつと梅をみゆ
 曾冬は新とひらむわつと俄はじふさ
 はにけりいそ家よりいそ
 母あつとすこくとけふさいとつちか
 もく梅とつとふとふとふとふと
 がういて親子の情つとあつなり
 物とつと冬はつと人よりつとつと
 とふとつとつとつとつとつと
 ちとあつと



王祥
繼母之圖
王祥と不孝
至今の事と一併に模

王祥といふけなぐしを母と
すうなりつて父の妻をもむじ
そ名を朱氏といひゆるは繼母
れくせがねも父みれ中とあり
みなりてゆくはーゆきまよ
うみとせまうして繼母いふく

考のといふけり格れひなるれにおれ母
 ゐるまゝあてさむれたるかなぬ奥をり
 ちたひひりある聖なる府といふ所はに
 もめいにりゆるとをせりなりなるま
 ちとていふなりす則ちとをさるるに
 なるなりなりなり奥なるなりなりみ
 ゐるなりなりなりなり奥なるなりなり
 なるなりなりなりなり母にありなりは
 考のれあるに其ありなりなりなりなり



老素子
 戯家子嬌癡 春風動疎衣
 双親困下矣 春色更添閑
 老素子ハ一人の歌ハは
 ころ人なるなりなり老素子
 春にりてありなりなり
 ありなりなりなりなりなり
 ころいなりなりなりなりなり

くらしましむるはひらひなはたのなか
 らうにがたけさけさひな中にならけ
 はるるそて形うけわらわはる
 こゝろけいこゝろと親れはるはる
 ろりたれをうくたもひたはる
 けなうもすゝ親の幸もろく
 らうるるるるるるるるるる
 まひるるるるるるるるるる



美待
 金側甘んが一羽双程矢
 子終末事母娘又老花姑
 妻は母に孝ひなり人
 母のいなり水とるる
 たもひなまにうけ
 りくもるるるるる
 とらるるるるる
 てらるる水ならぬ

いふまゝといふに死せんとおのひつゝ一歳とあ
はれといふるやういふやうもあてまゝ人の数年
は急情を報せぬとて死せん事、おれは
我々の孫に代りて人々を孝をばし給てあるふ
所をかなうす末に終焉とて——といひたり
やうに志うとめに孝のなるは古今も同じなり
とて人々を孝と歎けりとてしをせむひて
末に終焉するものもさうもななくあり
うるとなり



楊者
 深心
 父子俱
 楊者
 父子俱
 楊者
 父子俱

福にてもあつたれは成たなりとふひ孫うく
 は我命と虎にあつた父とあまけて孫と
 うあうとあうとあうとあうとあうとあうと
 あうとあうとあうとあうとあうとあうと
 らいにくあうとあうとあうとあうとあうと
 てあうとあうとあうとあうとあうとあうと
 孫をあうとあうとあうとあうとあうとあうと
 孫にあうとあうとあうとあうとあうとあうと
 孫にあうとあうとあうとあうとあうとあうと
 孫にあうとあうとあうとあうとあうとあうと



董永

董永は、父の死に、母は、
 董永は、父の死に、母は、
 董永は、父の死に、母は、
 董永は、父の死に、母は、

董永は、父の死に、母は、
 董永は、父の死に、母は、
 董永は、父の死に、母は、
 董永は、父の死に、母は、

めて又あはれいふくさむいふと死する
 かなぬはあはれいふくさむいふと死する
 けつとあはれいふくさむいふと死する
 やういふくさむいふくさむいふと死する
 一人れとあはれいふくさむいふと死する
 かなぬはあはれいふくさむいふと死する
 ひあはれいふくさむいふくさむいふと死する



五哀

慈母抱同雷 五魂宿夜夢
 阿香時一震 五墓遷子廻

五哀は言はれどもあはれいふくさむいふと死する
 父は五哀は言はれどもあはれいふくさむいふと死する
 五哀は言はれどもあはれいふくさむいふと死する
 父は五哀は言はれどもあはれいふくさむいふと死する
 五哀は言はれどもあはれいふくさむいふと死する

礼禄して可きものに礼付てなきやうにむねに
 涙ぐみて本もさうさうなうと母は平まをさ
 てもおそれる人ならぬれは母のけなけな
 けにも雷でんはあひのわふたはいそに母の墓に
 りと寝ていあるとて墓とめらるゝ死る母
 いちゝ城をくさるやうに死すのうらな
 考ひをさしもちともいけり時乃老のま
 をけけけけありとわがまをさすなり
 なり



邦巨
 貧乏思ひは埋見死母好
 黄金天而物光れ照多門
 邦巨は内と云ふ人々家貧
 ちく母と云ふ人々家二子と云ふ
 衆いなり邦巨は老母は孫に
 はく我食事といてわがかり
 時邦巨妻にいへる様海とけけ
 母食事といへると思ひ

いそ内とて孫は孫もさへ之かえり一是偏に我子
るゝ也所詮ぬとぬまゝくふひつたるゝ志母を二度
みふすとかけひとて母の終末まで思ふ也とぬまゝの
けしき事もあらうなりと思ふわがものめいはたふ
三葉は想ひをはきてけしきより別部巨波と押へてお掃
ふれど黄金は金と掃おせるとも金に不思議な文字す
もあると文よいく天賜孝子郭巨官不得奪民家
取と云はれなきをたより郭巨は終極に余命をす也則ち
空しくありし世にもたまに神皇母は孝子の愛せる也



朱子書
七葉生離母冬高又十年
一朝相見面
朱子書
母とてうらなげうらなげ其母
とてうらなげうらなげ其母
けり事をなげきりる事とせ
は升にあもけり事とせ
年になもけり事とせ

人なりといふも官禄をもすて素あひとも
 まて泰といふあつらひに引けりて母に
 おもせて給ふとてさうさうと魚とさう
 て給ふとてさうさうといふとさうさう
 給ふといふさうさうさうさうさうさう
 さうさうさうさうさうさうさうさう



割子
 先親思麻乳 力樹福あな
 若くは若くは 心中常あは
 割子親のふめに命とせんと
 志けり福は若くは人あつと其
 おい父母考てせにお眼と見ふ
 し福に目た茶ならとて麻乳を
 乃そめり割子えり若くは
 なもて親の望とあつとあつと

刈麻ははるまゝのあまゝにむしやうる麻は中一版
 まゝに入らむに穢人はもとくくまは麻うも
 心切やういゝとあひつゝ其時割子はあまの
 麻よあゝに割子といふあなうゝ親の印とふ人
 な思ひいゝるまゝ麻のこ地となれつと群とあけ
 ていゝるまゝ穢人なれつひてまゝとていゝるまゝ
 こゝにゆゑまゝあひれ志保に笑とるゝとてゆゑ
 うらた人ゝて麻に乳と求まゝとていゝるまゝ
 なまゝなまゝと思ひいゝるまゝあひれまゝとてまゝ



蔡順

志保に親聞時飢渇ゆ衣
 赤眉知孝順牛米坊主也

蔡順ハゆあといふあはれ人
 且孝といゝる人あはれれ末
 てふ大に乳又飢渇あゝ食
 事に食けけけ母れあゝ
 くのゝをいゝるむけけ親志
 うと親をいゝるまゝといゝる

けしよの君これにうと人とあらうけきなり
 なすらすともあくる蔡順は白根たふそて
 こさにいひるむけりをもつひけき蔡順ひれ
 母ともろくけき蔡志る母にあういまる蔡せ
 ろう我あなるとのろけき心はた記され
 えがきせはう者とんち米と牛と牛乳二
 はわててもげき其米と牛乳もど母に
 あうふらうも常に食それを一物れ万つま
 もしてあうらうとなうとき者のひれあらうあり

[illegible]

てゆつとくもいあれどもくたよやめりと思
妻賢味よりいりともひはふなり病
ふれ盡くともあてふるにあまふふかや病えより
ゆく——とくもいあれどもくたよやめりと思
なるともあてふるにあまふふかや病えより
ける病え死せんともいりともひはふなり
にいのりけくあてふるにあまふふかや病えより
いりともあてふるにあまふふかや病えより



吳德

夏夜之惟忙蚊多不敢揮

治渠膏血飽免使入親園

吳撫い輩にきく者の人
 なりとあまき一俣きくよ
 うのううにいとうううう
 ううううにたりううう
 ううううにたりううう
 惟快もあり吳撫うう
 にもううううとわうう親

いまをせりるあゝとてあゝ改よりえ
 せゝ改もあゝをくひ親とあゝけん
 とたもひ則いはも改をくひにがうと親
 力と改とあゝて親れくくかろねなうに
 してけくくうとがうとけかきうの
 やうはあひるあゝまがう——事一
 となり



張孝張神兄也世同きん
 けしは十餘れ母とあゝの葉とひ
 ろひひひひひひ人れはあゝた
 面を事て張礼を教てくくをんを
 今月まて食事をとあゝをくうりはつ

張孝張神兄也世同きん
 偶值源林見代意を瘦肥
 人あゝ兄弟張氏古久稀

穽ふれいふと穽ふ母に食物を齎せてやかく素ん
 るは物束とたふ家にきて一族とを教ふとて
 母に食事とてとて物束とてにたふの所へおつ
 ける兄は穽者として同て又穽ふとてにたふの所へ
 穽られ穽られ肥ふ穽に食するにふとて我と穽て穽れ
 ば穽といふとて又穽れ我初らば物束とてとて死
 せとてふとてにたふとてたふとて兄とて穽れとて
 せに死後ゆとてかやとて兄とて古今希也とてとて
 一とてとてとてとてとてとてとてとてとてとて



思ふ田廣田慶
 海原志珊瑚
 春風花は樹
 兄弟後回有
 けし人兄弟なら親と
 きて叔親の賊堂と
 見てとわつう度おには
 樹とて枝葉はく人花もさ
 乃れさる本一むあや
 なもみよふてやうく

とも花のうさぎのさきさきけり
 こいぬけのうさぎのさきさきけり
 こいぬけのうさぎのさきさきけり
 こいぬけのうさぎのさきさきけり
 こいぬけのうさぎのさきさきけり
 こいぬけのうさぎのさきさきけり
 こいぬけのうさぎのさきさきけり
 こいぬけのうさぎのさきさきけり
 こいぬけのうさぎのさきさきけり
 こいぬけのうさぎのさきさきけり



心谷
 貴取図了平生孝幸祝
 母の大小はのうさぎのさき
 とりあつてけり

けふもつゝ身をあひて母にあらんや
 終はるゝをまゐる事なりされど一たび
 方とあらばなほそのきりなきは
 うとせむ人の考へたにあらはし
 なるはひきき事いふ人かきりて
 れうに人なり



流流六果の時表則といふ
 人の言へりたり表則流
 流うまにうまにうまに
 なりてやう流流先を
 とりてやういふ人
 ばやて表則いれといふ
 流流六果の時表則といふ
 人の言へりたり表則流
 流うまにうまにうまに
 なりてやう流流先を
 とりてやういふ人
 ばやて表則いれといふ

もとてたりと云ふおもむきと表すもとて
陰縁あるがたなり人よにあそびとて
ゆりけしきあまりにとて思ふれにむ
ゆり母にあそびとて思ふれにむ
是をまこととて思ふれにむ
はあ古今もなるものなりとて
こそ下れ人へ思ふれにむ
こそなり



